

研究通信

No.1

都立墨田特別支援学校

令和7年6月27日

令和7年度の研究について

全校研究テーマ

学習指導要領を踏まえた授業改善～小・中学部及び高等部の学びの連続性を考える～

学習指導要領改訂を踏まえ、令和3・4年度の2年間は「主体的・対話的で深い学び」について、令和5年度からの2年間は、「育成すべき3つの資質・能力」に焦点を当て研究を進めました。この2年間は、全教員で、各教科等の他学部の指導について共通理解を図り、一貫した教育、学びの連続性が子供たちに保障されていくことの必要性を確認することができました。

今年度は小・中学部及び高等部の系統性や指導に一貫性をもたせるため、学習指導要領を基にして「学習内容整理表」の作成に取り組みます。「学習内容整理表」は、各教科等で学習指導要領に書かれた小学部1・2・3段階、中学部1・2段階、高等部1・2段階のそれぞれの各分野、領域の学習内容を一覧表にまとめ、各領域に該当する文部科学省著作教科書(星本)や高等部教科書の内容を加筆し指導すべき内容を視覚的に分かりやすく示したものです。

この学習内容整理表を活用して、各教科グループで文部科学省著作教科書(星本)や高等部教科書等を参考にして指導を進める際に、児童・生徒の生活年齢等も考慮して、実際の指導をどのように進めるべきかを検討していきます。

研究の2・3年目では、学習内容整理表と現行の年間指導計画の指導内容を比較検討し、学習内容整理表や星本の学習すべき内容が網羅されているか、生徒の実態に合ったものになっているかなど、お互いに確認し合い修正を加え、基準となる年間指導計画(墨田スタンダード)を作成していきます。実際の年間指導計画は、この墨田スタンダードを基に、各学年の実態に応じた微修正を行ったものにするこことで、学年・学部の指導に学びの連続性をもたせることができるようにしたいと考えています。

全校研修会

※時間、テーマは変更する可能性があります。

実施日時 令和7年8月1日(金) 14:30～16:30

外部講師 東京学芸大学 教育学部 特別支援科学講座講師 内海 友加利 先生

テーマ 「学習指導要領を踏まえた授業改善

～小・中学部及び高等部の学びの連続性を考える～」

研究発表会

実施日時 令和8年1月14日(水) 15:00～17:00

外部講師 東京学芸大学 教育学部 特別支援科学講座講師 内海 友加利 先生

内 容 各教科グループが研究成果を発表

総評と講演会

夏季研修会

外部専門家、本校教職員による夏季研修会を予定。

| 日時 | 講師 | 講演テーマ |
|----------|--------------------------|--|
| 7月22日(火) | 嶺田 和明 先生 (理学療法士) | タッチングとハンドリングについて 感じてみよう、考えてみよう |
| 7月23日(水) | 松村 裕美先生 (臨床発達心理士) | 保護者が学校に期待していることと家族支援 |
| 7月24日(木) | 小池 真琴 先生 (言語聴覚士) | コミュニケーション手段の連携・連続性と検討について ～学年・学部をつなぐ～ |
| 7月25日(金) | 大澤 ちひろ先生 (臨床発達心理士) | 実態に合わせた指導と支援の検討 Stage II 周辺の児童生徒を中心 |
| 7月29日(火) | 本間 智恵子 先生 (本校小学部主任教諭) | ICTを効果的に使って児童が主体的に取り組む 授業事例 |
| 7月29日(火) | 今井 佐和子 先生 (本校小学部主任教諭) | 授業づくりで大切にしていること ～実践例をあげて～ |
| 7月30日(水) | 表 昇 先生 (本校高等部主任教諭) | 高等部卒業生の進路先と卒業後の日常生活に 求められる力について |
| 7月30日(水) | 松浦 淳一 先生 (本校中学部教諭) | スモールステップを意識した授業づくり ～☆本(ロードマップ)の活用～ |

授業参観

研究授業を参観することで、授業改善に役立てます。教員同士授業を参観し、改善点を助言し合うなど、持続可能な授業力の向上システムを構築していきます。

教材・教具開発

児童・生徒の障害特性に応じた教材・教具を教員が作成します。作成したものを、全教員で共有し、授業改善につなげていきます。

次回の研究通信は、夏季研修会の様子をお伝えします。